

- 東名阪道の渋滞により、伊賀方面や南紀方面と名古屋間の休日の高速バス路線の遅延が常態化、利便性が大きく低下していた。
- 新名神開通後は高速バスの定刻運行が可能となり、それにより車両・ドライバーの効率化がはかられ、今後、ドライバーの働き方改革までも期待される。



高速バス事業者の声

■新名神開通による運行状況の変化

運行状況による効率性の変化(休日)

遅延状態

渋滞による到着遅延

伊賀上野 → 名古屋

予備車両で定刻出発

予備車両とドライバーを余分に確保する必要あり

定刻運行

伊賀上野 → 名古屋

車両1台の折り返し運行

車両1台の折り返し運行

車両1台の折返し運行で車両・人員を効率化

- ・伊賀や南紀方面と名古屋間の路線では、東名阪道の渋滞で、特に休日はバスの遅延が常態化していましたが、新名神開通後は、概ね定刻運行ができています。
- ・渋滞による遅延に予備車両とドライバーを余分に確保していましたが、定刻運行が可能となり、効率的な運行ができるようになりました。
- ・更に渋滞を考慮しないダイヤ改正が可能なので、ドライバーの働き方改革にもつなげたいです。



高速バス事業者